

三位一体型寺院 スワミーナーラーヤン・アクシャルダム

やまもと たつ や
山本 達也 民博 外来研究員、京都大学文学研究科GCOE研究員



正面から見た寺院の姿

ギネスブックに載った寺院

ニューデリー駅からメトロで数駅、場違いなほど壮大な寺院スワミーナーラーヤン・アクシャルダムが突如ヤムナー河畔にあらわれる。開祖とされるスワミーナーラーヤンを崇めるためにヒンドゥー系教団BAPS（ポチャールサンワシー・シュリー・アクシャル・プルシヨッタム・スワミーナーラーヤンサンスター）が二〇〇五年に建立したその寺院は、世界最大のヒンドゥー寺院としてギネスブックに掲載されている。ただ、この寺院の特徴はそこに限定されない。むしろこの寺院の特徴は、積極参加型の展示にあるといえる。

展示場としての寺院

まず、スワミーナーラーヤンの像が設えられた聖堂の階上に、スワミーナーラーヤンの衣類や道具、さらに爪や頭髮、遺灰にいたるさまざまな遺品が詳細な解説つきで展示されている。観賞を経たうえで参拝者が誘われるのは、スワミーナーラーヤンの人生をなぞるアトラクションである。ここで、幼少期から彼がもたらした奇跡を参加者は追体験し、また、そこかしこに教団の理

念が掲示されている。

さらに、四万五〇〇〇人を動員し、スワミーナーラーヤンがインド各地でみせた奇跡を描いた壮大な映画へと順路は続く。この映画で体験するインドが空間的な広がりであるならば、次に参加者が導かれるのは、ポート・ライドで学ぶ一万年にもおよぶインドの時間的な広がり、すなわち歴史である。そこでわたしが見たインドの歴史はヒンドゥーに特化したものであり、そこからムガル帝国など、イスラーム的な歴史は見事に排除されていた。こうしたアトラクションへの参加は約三時間にもおよび、さらに、ナイト・ショーではUSJ顔負けの光と音のショーが開催される。

ヒンドゥー・ナシヨナリズムとのダブルリンク

寺院への参拝者は、わたしをのぞけばヒンドゥー教徒であっただろう。彼らにとって娯楽を伴った積極参加型の展示は、物珍しさもあって魅力的だったに違いない。しきりに歓喜や驚嘆の声が聞かれたし、次のアトラクションに人びとは我先にと押しよせていた。もちろん、彼らが展



寺院の公式グッズ



駅構内に掲示される寺院の広告

示に没入したか否かは知る由もないが、ヒンドゥー寺院における博物館的展示とテーマ・パークの融合が提示するメッセージは、ヒンドゥー・ナシヨナリズムという現代インドを覆う情勢と軌を一にしているように思えてならない。